

Title	決算政策の経済性分析
Sub Title	
Author	末松栄一郎(Suematsu, Eiichirou) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第849号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0849

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	末松 栄一郎	主査	伏見多美雄
		副査	柴田 典男
			太田 康信
			黒川 行治
所属	伏見多美雄 研究室		

決算政策の経済性分析

決算政策は、財務会計上の各数値を経営上望ましいものにするために行われるものである。換言すれば、決算政策は経営政策の一つとして経営目標を達成する手段であると位置づけることができる。

経営目標は利益の他に複数のものがある。そして諸目標は互いに影響を及ぼしあっている。相互に影響を及ぼしあう経営諸目標の関係に注意を向けながら経営政策はとられているのである。

経営政策の一つである決算政策も当然ながら諸目標の達成にどのような効果をもつのか、さらにある目標達成のための決算政策が他目標にどのような影響を与えるのかを正確に掌握したうえで実施するのか否かについての意思決定がなされなければならない。

本論文は、二つの対立する目標、つまり財務会計利益を大きくするという目標と経済上の利益を大きくするという目標を経営諸目標の代表にあげ、企業の立場から決算政策を検討するものである。

まず第1章では、企業の立場からの決算政策の検討が必要であることを示している。つづく第2章では、経営政策としての決算政策の役割について述べ、財務会計利益と経済上の利益の2つの側面から決算政策を検討することの必要性を示している。そして、こうした問題意識のもと、第3、4、5、6、7章で代表的な決算政策の例を取り上げ、財務会計利益を大きくする決算政策が経済上どのような意味をもつのかを経済性分析の手法を用いて示している。さらに、経営者の意思決定に役立つ分析、評価の例を紹介する。第8章では、経済性分析の結果明らかになった決算政策の構造を体系的に整理し、決算政策の（決算政策を実施しなかった場合に比した）経済上の優劣（経済上の利益の大きさ）を決定する要因を明らかにする。そして、最後に、どのような決算政策が望ましいのかを決定する尺度について若干のコメントを述べるとともに、今後の課題について述べている。